本プロジェクトでは、海草藻場面積と海藻藻場面積の算定を行うため、空中ドローン、水中ドローン及び潜水目視観察を行った。図1に調査地点図を示す。

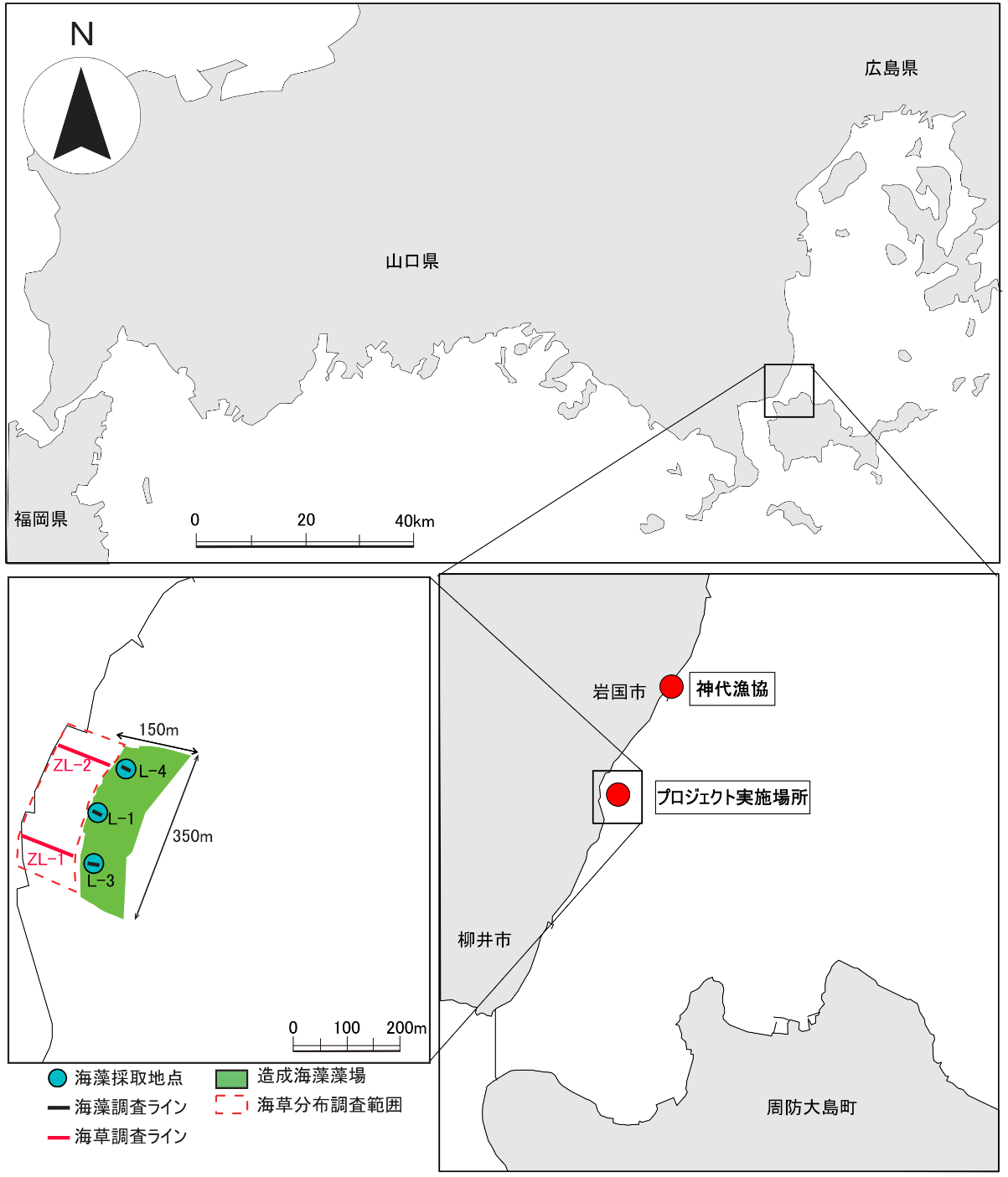


図1　調査地点図

本プロジェクトにおいて創出した海藻藻場は、30～85mmの鉄鋼スラグ製品を用いている。そのため鉄鋼スラグ製品の移動がなければ海藻藻場の外縁面積は変わらない。

サイドスキャンソナーによって2023年2月に測量を行い、海藻藻場外縁面積を求めた。サイドスキャンソナーによる結果は図4、海藻藻場面積は表2のとおりである。

ベルトトランセクト法(潜水目視)によって2022年6月に海藻の種類及び被度について確認を行った。確認を行ったコドラート数、面積及び海藻の平均被度を表3に、海藻生育状況を図5に示す。

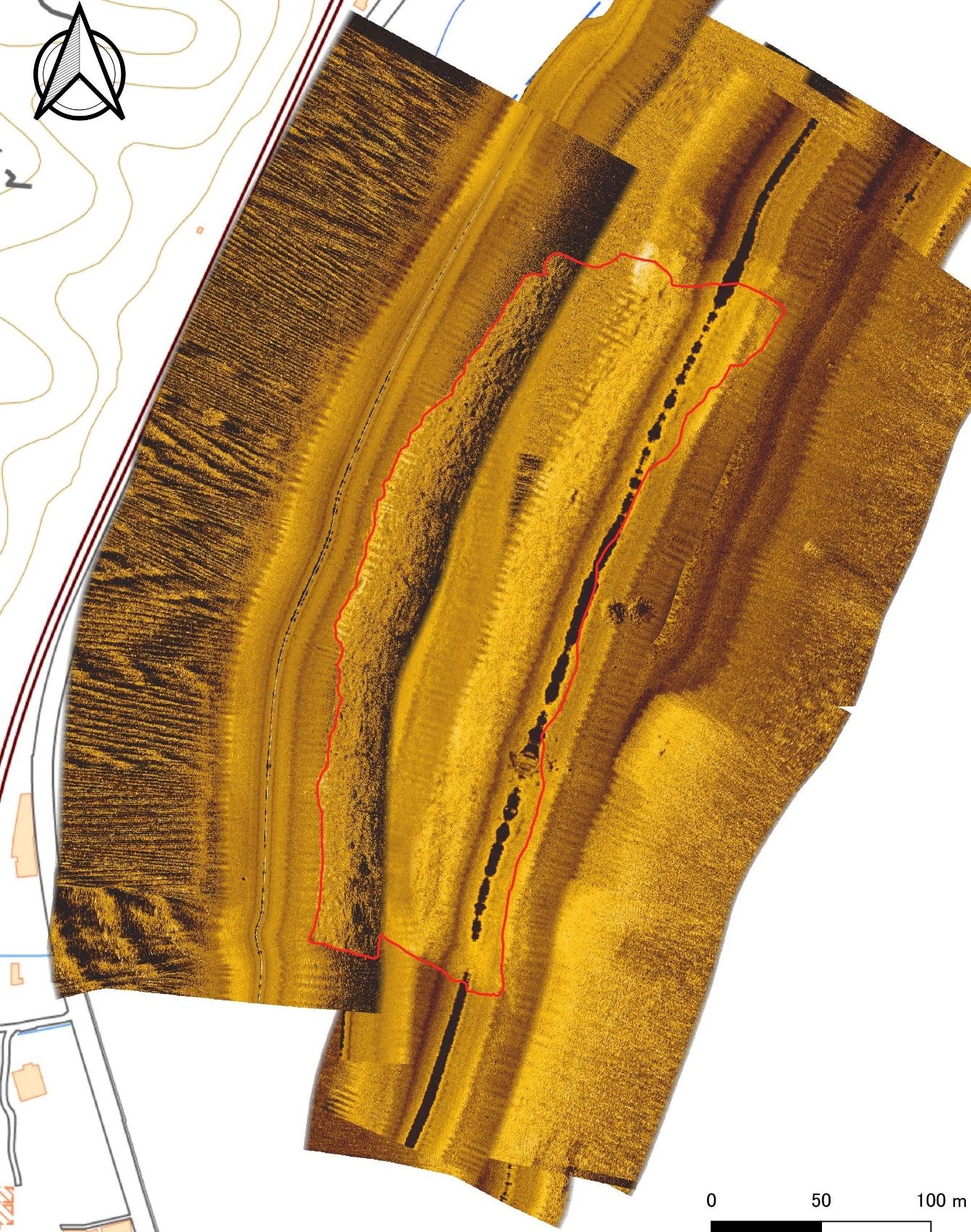


図4 サイドスキャンソナー結果(2023年2月)

表2　海藻藻場の面積

|  |  |
| --- | --- |
| 年月 | 2023年2月 |
| 面積(m2) | 33821 |

表3　海藻(その他海藻)の着生被度



ムチモ科：被度50%、ケヤリ：被度45%　　　ムチモ科：被度95%：L-4：2022年6月

L-1：2022年6月

図4　海藻生育の把握(2022年6月)